



神経疾患の診断における落とし穴

誤診を避けるために

企画 本誌編集委員会

神経疾患の診断は難しいものが多く、診断を行ったとしても、経過を見ていく中で診断が変わることがある。神経疾患の治療薬も増えてきた現在、正確な診断を早期に行うことは極めて重要であり、誤診自体が致命的な治療の遅延を招く可能性もある。本特集では、著者の自験例を提示しながら誤診に陥りやすいポイントを示し、単なる鑑別診断の方法にとどまらず、正しい診断に到達するにはどのようにすればよいのかを解説する。

1. 神経疾患に関する医療過誤（大平雅之）

神経疾患において医療過誤とは何を指すのか、どのような状況で何を契機に発生するのか。くも膜下出血、脳梗塞、筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病などの実際の裁判例をもとに解説する。 p287

2. 意識障害（栗原智宏）

- ・脳卒中や頭部外傷が疑われたが……。 p295
- ・ショックの鑑別に時間を要し……。 p297
- ・脳震盪が疑われたが……。 p299

3. 頭痛・めまい（清水利彦）

- ・両側性の頭痛とめまいを訴えたが、頭部画像検査では異常なし。この症例の診断は……。 p303

4. 脳卒中（木村浩晃）

- ・急性期脳梗塞と思われたが……。 p311
- ・前兆のある片頭痛が疑われたが……。 p313

5. 認知症疾患（池田将樹）

- ・口腔内セネストパチーが先行し記憶障害で発症。この症例の診断は……。 p323
- ・記憶障害、書字障害、ふらつきの原因は……。 p326

6. パーキンソン病と関連疾患（山脇健盛）

- ・左右差のあるパーキンソン症状を認めたが……。その1 p331
- ・左右差のあるパーキンソン症状を認めたが……。その2 p338

7. 神経難病（田中裕三，他）

- ・ALS が疑われたが……。 p345

8. 脱髄疾患（久富木原健二，中原 仁）

- ・インフルエンザ罹患後にめまいと嘔気を訴えた。この症例の診断は……。 p355

9. 筋疾患（尾方克久）

- ・高クレアチンキナーゼ血症を伴う筋力低下の原因は……。 p371
- ・長年にわたり緩徐に進行する筋力低下の正体は……。 p373

10. 末梢神経疾患（松尾欣哉，他）

- ・呼吸器感染に引き続き急激な筋力低下と呼吸不全をきたした7歳女児。この症例の診断は……。 p381

11. 神経感染症（吉沢和朗）

- ・原因不明の嚥下障害が先行し、開口障害が加わった。この症例の診断は……。 p387
- ・発汗障害と嗅覚障害が先行し、辺縁系脳炎と考えられたが……。 p389
- ・発熱、傾眠、パーキンソン症状の原因は……。 p392

12. 脳腫瘍（小森隆司）

- ・Anaplastic oligodendroglioma（退形成性乏突起膠腫）が疑われたが……。 p399

13. 画像診断（百島祐貴）

- ・一見脳梗塞だが……。 p407
- ・よくある虚血性変化……。 p408
- ・正常と思われたが……。 p410
- ・本当に脳腫瘍……。 p411
- ・単なる頸椎症……。 p412
- ・肺癌があるから骨転移……。 p414

14. 神経伝導検査（三澤園子）

- ・下肢遠位優位の運動・感覚障害の原因は……。 p417
- ・手術で改善しない両足のしびれ感の原因は……。 p419

15. 脳波（十河正弥，他）

- ・焦点てんかんと思われたが……。 p425
- ・失神が疑われたが……。 p428